

東京デフリンピック

宮城の8人挑む

聴覚障害があるスポーツ選手の祭典「デフリンピック」には、宮城県から陸上、ボウリング、バスケットボールの3競技に計8人の選手が出場するんだ。大会に懸ける思いを聞いたよ。

メダル獲得目指す

陸上 仙台大の5選手意欲

陸上には仙台大から5人の選手が出場します。1面で紹介した大学職員の佐々木琢磨選手(31)＝仙台市太白区＝のほか、陸上競技部員の学生4人がメダル獲得を目指して参加します。

佐々木選手と共に男子400㍓リレーに選ばれたのは4年長谷川翔大選手(21)＝宮城県角田市＝。「国際大会への出場は初めて。外国人がたくさんいる中でも、びびらずに走り切りたい」と張り切っています。

ともに3年の村田悠祐選手(20)＝宮城県柴田町＝、小原奏楽選手(21)＝同＝は、男子400㍓障害と1600㍓リレーに出場します。

2024年にトルコで開かれた冬季デフリンピックに出場し、アルペンスキー男子大回転で銀メダルを獲得した村田選手は「夏季大会は初めて。メダルを取ってみんなに恩返しをしたい」。小原選手は「デフ400㍓障害は競技人口が少なく、良い



デフリンピックのポーズを取る、左から生井沢、小原、佐々木、長谷川、村田の各選手＝10月7日、仙台大

タイムを出して競技の魅力を発信したい」と意気込みます。

1年の生井沢彩瑛選手(19)＝同＝は女子100㍓、200㍓、400㍓リレー、1600㍓リレーの4種目に選ばれました。

「スタートランプやサインエールなど、デフでしか見られない魅力がいっぱいある。そこにも注目して大会を楽しんでほしい」と呼びかけます。

バスケ 高山選手

競技の魅力伝える



シュートポーズで意気込みを語る高山選手＝10月6日、宮城県庁

バスケットボールの男子日本代表チームには、仙台市太白区の東北学院大4年高山和也選手(22)が選ばれました。身長178㍒。ポジションはシューティングガードやスモールフォワードを務めます。パスやフェイントで仕掛けるプレーを得意とします。

チーム目標はメダル獲得。「個人的には、デフバスケの魅力やスポーツの力、障害を武器にできるということを伝えたい」と語ります。

決め付け振り払う



ポーズを決める戸羽選手(左)と佐藤選手＝10月6日、宮城県庁

ボウリング 戸羽選手と佐藤選手

ボウリングは宮城県気仙沼市の戸羽康之選手(55)と、仙台市若林区の東北福祉大2年佐藤杏奈選手(20)の2人が参加します。

戸羽選手はボウリング歴32年。前回ブラジル大会は現地の都合でボウリングが実施されず、今回が初出場です。「この4年間、もう一頑張りして腕を磨いてきた。調子は絶好調。最高得点の300点を取りたい」と闘志を燃やします。

中学生でボウリングを始めた佐藤選手は、父親の指導で力を付けて代表入り。金メダルを獲得して「お父さんに掛けてあげるのが目標です。」

日本初開催のデフリンピックについては「障害があるからできない」と決め付けられることがまだある。「聞こえないはずではないじゃない」ということを、多くの人に感じてほしい」とアピールしました。